

開設母体

要件

教育学学位プログラム(博士後期課程)

基礎科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBTA001	教育学特論I	2	1.0	1	秋AB	随時		藤井 穂高, 川口純, 平井 悠介, 田中正弘, 遠藤 優介, 名畑目 真吾, 徳永 智子, 京免 徹雄, 甲斐 雄一郎, 井田 仁康, 磯田 正美, 清水 美憲, 濱田 博文, 藤田 晃之, 樋口 直宏, 平田 諭治, 國分 麻里, 唐木 清志, 長田 友紀, 佐藤 博志, 蒔苗 直道, 上田 孝典, 田中 マリア, 菊地 かおり, タスタンベコワ クアニシ, 山本 容子	教育学研究の課題と方法について、担当教員の専門領域を中心に、検討する。その上で、担当教員の指導の下で、博士論文の構想を作成する。併せて専門領域の最新の研究動向も検討する。なお、博士論文構想発表会で、その構想を発表し、他の教員からも指導助言を受けることとする。	
OBTA002	教育学特論II	2	1.0	2	春AB	随時		藤井 穂高, 川口純, 平井 悠介, 田中正弘, 遠藤 優介, 名畑目 真吾, 徳永 智子, 京免 徹雄, 甲斐 雄一郎, 井田 仁康, 磯田 正美, 清水 美憲, 濱田 博文, 藤田 晃之, 樋口 直宏, 平田 諭治, 國分 麻里, 唐木 清志, 長田 友紀, 佐藤 博志, 蒔苗 直道, 上田 孝典, 田中 マリア, 菊地 かおり, タスタンベコワ クアニシ, 山本 容子	教育学の研究課題と方法について、論文の作成を通じて、検討する。本特論では、特に専門学会に投稿できる水準の論文の作成方法を学ぶ。そのために先行研究の検討、論文の課題の設定、研究課題に応じた方法の選択、論文の構成と一貫性などについて検討する。なお、作成した論文は、投稿形式論文発表会において発表し、他の教員からも指導助言を受けることとする。	

専門基礎科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
------	-----	------	-----	--------	------	-----	----	------	------	----

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBTA101	教育学演習I	2	1.0	2	秋AB	集中		藤井 穂高, 川口純, 平井 悠介, 田中正弘, 遠藤 優介, 名畑目 真吾, 徳永 智子, 京免 徹雄, 甲斐 雄一郎, 井田 仁康, 礪田 正美, 清水 美憲, 濱田 博文, 藤田 晃之, 樋口 直國, 宏 平田 諭治, 國分 麻里, 唐木 清志, 長田 友紀, 佐藤 博志, 蒔苗 直道, 上田 孝典, 田中 マリア, 菊地 かおり, タスタンベコフ クアニシ, 山本 容子	担当教員の指導の下で、博士論文の構想と具体的な内容について検討を行う。構想については、研究の目的と方法、論文の構成、先行研究の検討、論文の概要、研究の成果について検討する。その概要については博士論文中間発表会で発表し、他の教員からも指導助言を受ける。	
OBTA102	教育学演習II	2	1.0	2	通年	集中		藤井 穂高, 川口純, 平井 悠介, 田中正弘, 遠藤 優介, 名畑目 真吾, 徳永 智子, 京免 徹雄, 甲斐 雄一郎, 井田 仁康, 礪田 正美, 清水 美憲, 濱田 博文, 藤田 晃之, 樋口 直國, 宏 平田 諭治, 國分 麻里, 唐木 清志, 長田 友紀, 佐藤 博志, 蒔苗 直道, 上田 孝典, 田中 マリア, 菊地 かおり, タスタンベコフ クアニシ, 山本 容子	国際学会での発表を行えるような研究者としての知識と技能を養うことを目的とする。そのために、英文による論文作成のための基本的知識と技能の習得を図る。その成果として、海外での研究発表を行うこととする。	
OBTA103	フィールドワーク研究	2	1.0	2	春AB	集中		藤井 穂高, 川口純, 平井 悠介, 田中正弘, 遠藤 優介, 名畑目 真吾, 徳永 智子, 京免 徹雄, 甲斐 雄一郎, 井田 仁康, 礪田 正美, 清水 美憲, 濱田 博文, 藤田 晃之, 樋口 直國, 宏 平田 諭治, 國分 麻里, 唐木 清志, 長田 友紀, 根津 朋美, 佐藤 博志, 蒔苗 直道, 上田 孝典, 田中 マリア, 菊地 かおり, タスタンベコフ クアニシ, 山本 容子	社会人の学生を対象に、現場でのフィールドワークの研究方法について修得することを狙いとする。そのために、学校、大学、職場等での、フィールドワークの意義、方法、具体的な手順等について、担当教員の専門領域に適した内容を習得する。	

専門科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
------	-----	------	-----	--------	------	-----	----	------	------	----

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBTA201	教育哲学研究法I	2	3.0	1 - 3	通年	随時		平井 悠介	教育哲学の思考法を理解するために、教育哲学における基本文献を講読し、研究課題について議論する。また、議論を通じて得られた研究知見を現代的課題の探究へと応用する論文を作成するための研究指導も併せて行う。講読する基本文献は、John Dewey, Democracy and Education(1916)とし、外国語文献を理解するための研究方法を理解するとともに、教育目的を内在的にとらえるデューイ思想に教育哲学的思考の一つのあり方を理解することを目指す。	02JB101と同一。
OBTA202	教育哲学研究法II	2	3.0	1 - 3	通年	応談		平井 悠介	教育哲学の思考法を理解、深化するために、教育哲学と関連する諸分野(倫理学、政治=社会哲学等)における基本文献を講読し、当該分野の研究課題について議論する。また、議論を通じて得られた研究知見を、教育哲学へと接合させる論文を作成するための研究指導を併せて行う。講読する基本文献は、John Rawls, Theory of Justice(1971)とし、現代政治哲学の研究課題、および論争点を理解するとともに、教育の課題との関連性について理解、考察を深めることを目指す。	
OBTA203	教育哲学研究法III	2	3.0	1 - 3	通年	応談		平井 悠介	教育哲学の思考法を理解、深化させるために、近代教育学の探究の外に置かれた家庭をめぐる課題を探究する教育哲学研究を講読し、当該分野の研究課題について議論する。また、議論を通じて得られた研究知見を応用した論文を作成するための研究指導を併せて行う。講読する基本文献は、Harry Brighouse and Adam Swift, Family Values(2014)とし、現代教育学の研究課題、および論争点を理解するとともに、国家と家庭の対立の調停という教育哲学的課題の探究を深めることを目指す。	02JB103と同一。
OBTA211	高等教育論研究法I	2	3.0	1 - 3	通年	随時		田中 正弘	質的研究法の基礎を学び、観察や面接などの実施方法を修得する。そして実際に、自らが立てた課題の解決に必要な、大学に関わるデータを収集する。それらのデータを用いて現象の説明を試み、その結果を論文にまとめ、その内容について受講生の間で批判的に討議する。これらの作業を通して、質的研究法を用いた論文作成のための知識・技能を身につける。	02JB211と同一。
OBTA212	高等教育論研究法II	2	3.0	1 - 3	通年	応談		田中 正弘	混合研究法の基礎を学び、質的調査と量的調査をつなぐ研究アプローチを修得する。そして実際に、自らが立てた課題の解決に必要な、大学に関わる質的・量的データを収集する。それらのデータを用いて仮説の検証を試み、その結果を論文にまとめ、その内容について受講生の間で批判的に討議する。これらの作業を通して、混合研究法を用いた論文作成のための知識・技能を身につける。	02JB212と同一。
OBTA213	高等教育論研究法III	2	3.0	1 - 3	通年	応談		田中 正弘	比較教育学の研究方法を援用し、外国の大学を対象とする研究方法の基礎を学ぶ。そして実際に、自らが立てた課題の解決に必要な、大学に関わるデータを収集する。それらのデータの分析結果を論文にまとめ、その内容について受講生の間で批判的に討議する。これらの作業を通して、比較教育学の研究法を用いた論文作成のための知識・技能を身につける。	02JB213と同一。
OBTA221	日本教育史研究法I	2	3.0	1 - 3	通年	応談		平田 諭治	日本教育史における研究課題について議論し、論文作成のための研究指導を行う。日本の教育・文化の歴史的構造をグローバル・スケールで考えるための研究課題を設定し、国民教育システムの形成・確立・変容を、帝国規模の変動や国際関係の力学と重ねながら、具体的かつ実証的に解き明かすことを目指す。近現代を中心とするが、日本教育史の全般を視野に入れることを心がけ、ナショナリズム/オリエンタリズム/コロニアリズムとの結びつきを課題化する。	
OBTA222	日本教育史研究法II	2	3.0	1 - 3	通年	応談		平田 諭治	日本教育史における研究動向について議論し、論文作成のための研究指導を行う。日本の教育・文化の歴史的構造をグローバル・スケールで考えるために研究動向を把握し、国民教育システムの形成・確立・変容を、帝国規模の変動や国際関係の力学と重ねながら、具体的かつ実証的に解き明かすことを目指す。近現代を中心とするが、日本教育史の全般を視野に入れることを心がけ、ナショナリズム/オリエンタリズム/コロニアリズムとの結びつきを調査する。	02JB112と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBTA223	日本教育史研究法ⅠⅠⅠ	2	3.0	1-3	通年	応談		平田 諭治	日本教育史における研究方法について議論し、論文作成のための研究指導を行う。日本の教育・文化の歴史的構造をグローバル・スケールで考えるための研究方法を構想し、国民教育システムの形成・確立・変容を、帝国規模の変動や国際関係の力学と重ねながら、具体的かつ実証的に解き明かすことを目指す。近現代を中心とするが、日本教育史の全般を視野に入れることを心がけ、ナショナリズム/オリエンタリズム/コロナリズムとの結びつきを方法化する。	02JB113と同一。
OBTA231	生涯学習・社会教育学研究法Ⅰ	2	3.0	1-3	通年	随時		上田 孝典	生涯学習・社会教育学に関する研究について、基本文献や最新の学術文献を購読するとともに、関連領域を含めた歴史、思想、法制度、政策、行財政などについて理解を深め、研究の基盤となる知見を習得する。そのうえで、それぞれの研究テーマに関わる先行研究について発表しあい、研究の到達点や残された課題、新しい研究方法や研究の視点などについて受講生の間で討議を行うことで、研究論文を作成するために必要な研究能力を育てる。	02JB131と同一。
OBTA232	生涯学習・社会教育学研究法Ⅱ	2	3.0	1-3	通年	応談		上田 孝典	生涯学習・社会教育学に関する研究課題について、国内外の研究動向を踏まえながら、各自の課題意識や研究関心を探求し、研究テーマの検討を行う。そのうえで、それぞれの研究テーマについて発表しあい、問題の所在やテーマの妥当性、研究の意義などについて受講生の間で討議を行うことで、研究論文を作成するために必要な研究能力を育てる。	02JB132と同一。
OBTA233	生涯学習・社会教育学研究法Ⅲ	2	3.0	1-3	通年	応談		上田 孝典	生涯学習・社会教育学に関する研究方法について、国内外の先行研究を踏まえながら、各自の研究テーマに即した方法論を検討する。そのうえで、それぞれの研究方法について発表しあい、課題と方法の整合性や理論的枠組みの考察、調査方法の正確性、仮説の設定と結論を導く論理構成などについて受講生の間で討議を行うことで、研究論文を作成するために必要な研究能力を育てる。	02JB133と同一。
OBTA241	教育制度学研究法Ⅰ	2	3.0	1-3	通年	随時		藤井 穂高	教育制度学における研究課題の設定について検討する。研究課題の設定の仕方考えるのに適切な先行研究を検討する。そのうえで、各受講生の研究課題について発表しあい、各自の研究関心に関わる最新の研究動向について討議する。これらのことを通して論文作成のための研究指導を行う。	02JB141と同一。
OBTA242	教育制度学研究法Ⅱ	2	3.0	1-3	通年	応談		藤井 穂高	教育制度学における研究方法のあり方について検討する。研究課題に応じて適切な研究方法を考えるのに適切な先行研究を検討する。そのうえで、各受講生の研究課題について発表しあい、各自の研究関心に関わる最新の研究動向について討議する。これらのことを通して論文作成のための研究指導を行う。	02JB142と同一。
OBTA243	教育制度学研究法Ⅲ	2	3.0	1-3	通年	応談		藤井 穂高	教育制度学における先行研究について検討する。研究課題を設定する際の先行研究の踏まえ方について適切な先行研究を検討する。そのうえで、各受講生の研究の枠組みについて発表しあい、各自の研究関心に関わる最新の研究動向について討議する。これらのことを通して論文作成のための研究指導を行う。	02JB143と同一。
OBTA251	学校経営学研究法Ⅰ	2	3.0	1-3	通年	随時		濱田 博文、佐藤 博志	学校経営学についての基本文献を講読するとともに、戦後の学校経営に関する教育政策の歴史的展開をたどりながら、研究の基礎となる概念や理論について理解を深める。そのうえで、各受講生の研究的な関心について発表しあい、各自の研究関心に関わる最新の教育政策および研究の進展について討議し、学校経営学の最新の研究動向を把握する。これらのことを通して、各受講生が論文作成をおこなうための研究課題を明確にして、論文作成のために必要な研究能力を育てる。	02JB161と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
OBTA252	学校経営学研究法II	2	3.0	1-3	通年	応談		濱田 博文, 佐藤 博志	学校経営学についての最新の学術文献を講読するとともに、近年の学校経営に関する教育政策の展開をたどり、発展的な研究の基礎となる概念や理論について理解を深める。そのうえで、各受講生の研究主題と研究課題について発表しあい、それに関わる最新の教育政策および最新の研究状況について討議し、学校経営学の最新の研究方法の在り方を把握する。これらのことを通して、各受講生が明確にした研究課題を踏まえながら適切な研究方法の在り方を検討して、論文作成のために必要な研究能力を育てる。	02JB162と同一。
OBTA253	学校経営学研究法III	2	3.0	1-3	通年	応談		濱田 博文, 佐藤 博志	学校経営学についての最新の学術文献を講読するとともに、近年の学校経営に関する教育政策の展開をたどり、発展的な研究を推進するための最先端の基礎概念や理論について理解を深める。そのうえで、各受講生の研究主題と研究課題、ならびに研究方法の具体について発表しあい、同時に最新の教育政策および最新の研究状況について討議し、学校経営学の最新の研究課題と研究方法の在り方を把握する。これらのことを通して、各受講生が明確にした研究課題を踏まえながら適切な研究方法の在り方を検討するとともに、論文全体の構成を吟味し、論文作成のための総合的な能力を育てる。	02JB163と同一。
OBTA261	比較・国際教育学研究法I	2	3.0	1-3	通年	随時		川口 純, 菊地 かわり, タスタンベコフ クアニシ	比較・国際教育学における研究課題について議論し、論文作成のための研究指導を行う。比較教育学研究の系譜を学ぶとともに教育理念・思想、教育制度・政策、教育内容と方法などを研究対象とするさいに、比較・国際教育学の視座から設定できる研究課題の枠組みに焦点を当てて関連文献の検討を行う。さらに、比較教育学研究における研究者のアイデンティティとポジショナリティ形成に焦点を当て、研究倫理に関する指導を行う。	02JB171と同一。
OBTA262	比較・国際教育学研究法II	2	3.0	1-3	通年	応談		川口 純, 菊地 かわり, タスタンベコフ クアニシ	比較・国際教育学における研究動向について議論し、論文作成のための研究指導を行う。特に、比較教育学研究の歴史的展開において各時代における研究動向を関連文献の検討を通して整理する。また、研究対象別に各時代、各地域の政治・経済・社会体制の違いによる研究動向の特徴を捉える。冷戦の終焉、グローバル化と新自由主義の進展が各国の教育に与える影響を分析する研究の標準化に関する批判的検討を行い、研究の独自性、学術的価値について議論する。	02JB172と同一。
OBTA263	比較・国際教育学研究法III	2	3.0	1-3	通年	応談		川口 純, 菊地 かわり, タスタンベコフ クアニシ	比較・国際教育学における研究方法について議論し、論文作成のための研究指導を行う。比較教育学研究における質的調査と量的調査の特徴を把握し、研究対象の地域的、政治・経済・社会的特徴に対応した研究方法について関連文献の検討を通して議論する。研究対象に関わる一次資料の入手に必要な外国語運用能力、エスノグラフィ、ライフヒストリー、ライフストーリー、参与観察などの方法に求められる研究者ネットワークの課題について議論する。	02JB173と同一。
OBTA271	教育社会学研究法I	2	3.0	1-3	通年	随時		徳永 智子	教育社会学における研究課題の設定について検討する。研究課題の設定の仕方を考えるのに適切な先行研究を検討する。そのうえで、各受講生の研究課題について発表しあい、各自の研究関心に関わる最新の研究動向について討議する。これらのことを通して論文作成のための研究指導を行う。	02JB191と同一。
OBTA272	教育社会学研究法II	2	3.0	1-3	通年	応談		徳永 智子	教育社会学における研究方法のあり方について検討する。研究課題に応じて適切な研究方法を考えるのに適切な先行研究を検討する。そのうえで、各受講生の研究課題について発表しあい、各自の研究関心に関わる最新の研究動向について討議する。これらのことを通して論文作成のための研究指導を行う。	02JB192と同一。
OBTA273	教育社会学研究法III	2	3.0	1-3	通年	応談		徳永 智子	教育社会学における国際的な研究課題とそのため研究方法について検討する。そのため適切な先行研究を検討する。そのうえで、各受講生の研究課題について発表しあい、各自の研究関心に関わる最新の研究動向について討議する。これらのことを通して論文作成のための研究指導を行う。	02JB193と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBTA301	カリキュラム研究法I	2	3.0	1 - 3	通年	随時		根津 朋実	「教育課程」や「学習指導要領」といった基本的な用語に関し、大学の学部段階や教職課程の基礎知識の保有を前提としつつ、今日のカリキュラム研究における多様な動向を理解することを目指す。理論面では、1960年代「隠れたカリキュラム」から1970年代「再概念化(主義)」以降に展開した、多様な「カリキュラム」概念の動向を概観する。実践面では、主に近年の研究開発学校や教育課程特例校などを検討する予定である。基本的に、受講者による発表と討議を中心に進める。	02JC101と同一。
OBTA302	カリキュラム研究法II	2	3.0	1 - 3	通年	応談		根津 朋実	ここ20年ほどの「カリキュラム(・)マネジメント」に関する語文献や資料を、批判的に講読する。いわゆる「Plan-Do-Check-Act(ion)サイクル」と並び、現在政策的に用いられる「カリキュラム・マネジメント」は、研究面の用法とは明らかに異質である。この科目では、「カリキュラム(・)マネジメント」の淵源を1970年前後の欧州SBDC(School-Based Curriculum Development)論の動向に求めつつ、関連する教育課程経営などの諸論考を検討対象とする予定である。基本的に、受講者による発表と討議を中心に進める。	02JC102と同一。
OBTA303	カリキュラム研究法III	2	3.0	1 - 3	通年	応談		根津 朋実	この科目では、カリキュラム研究の方法的側面を扱う。教育学を含む社会科学の研究方法は多種多彩であり、カリキュラム研究もその例外ではない。すなわち、歴史や哲学的なアプローチ、国際比較、観察や聞き取りといった質的調査、質問紙調査に代表される量的調査、特徴的な実践事例の検討など、多面的かつ複合的に研究方法を組み合わせる傾向がみられる。この科目では、特に研究方法に注目して、各種ジャーナル等の学術論文を講読する。基本的に、受講者による発表と討議を中心に進める。	02JC103と同一。
OBTA311	教育方法学研究法I	2	3.0	1 - 3	通年	応談		樋口 直宏	学習指導理論と学習過程を中心に取り上げ、このテーマに関する理論的および実証的研究を行う。これらを通じて、教育方法学に関する発展的な知見を習得し、論文としてまとめることを目標とする。具体的には、学習指導理論と学習過程に関して、日本教育方法学会『教育方法学研究』や日本教育工学会『日本教育工学雑誌』等の学会誌を中心とした論文の検討や実践分析を行いながら討論する。これらについて、受講者各自の研究テーマと関連づけながら、理論もしくは調査研究に関する報告を行うとともに、各自もしくは共同での論文作成へとつなげていく。	02JC111と同一。
OBTA312	教育方法学研究法II	2	3.0	1 - 3	通年	随時		樋口 直宏	教授スキルと指導効果を中心に取り上げ、このテーマに関する理論的および実証的研究を行う。これらを通じて、教育方法学に関する発展的な知見を習得し、論文としてまとめることを目標とする。具体的には、教授スキルと指導効果に関して、日本教育方法学会『教育方法学研究』や日本教育工学会『日本教育工学雑誌』等の学会誌を中心とした論文の検討や実践分析を行いながら討論する。これらについて、受講者各自の研究テーマと関連づけながら、理論もしくは調査研究に関する報告を行うとともに、各自もしくは共同での論文作成へとつなげていく。	02JC112と同一。
OBTA313	教育方法学研究法III	2	3.0	1 - 3	通年	応談		樋口 直宏	教師効果と学習意欲を中心に取り上げ、このテーマに関する理論的および実証的研究を行う。これらを通じて、教育方法学に関する発展的な知見を習得し、論文としてまとめることを目標とする。具体的には、教師効果と学習意欲に関して、日本教育方法学会『教育方法学研究』や日本教育工学会『日本教育工学雑誌』等の学会誌を中心とした論文の検討や実践分析を行いながら討論する。これらについて、受講者各自の研究テーマと関連づけながら、理論もしくは調査研究に関する報告を行うとともに、各自もしくは共同での論文作成へとつなげていく。	02JC113と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBTA321	道徳教育学研究法I	2	3.0	1 - 3	通年	随時		田中 マリア	道徳教育学研究の基礎的事項をおさえるため、道徳教育に関する用語や位置づけ、特質などについて、大学の学部段階や教職課程の基礎知識を確認するとともに、これまで道徳教育学分野において積み重ねられてきた議論について要点をおさえる。具体的には受講者とともに道徳教育に関する基本文献や論争史などを輪読し、道徳教育学研究の基礎的事項について理解を深めつつ、適宜、受講者のとくに関心のある課題を重点的に討議する。これらを通して、道徳教育学研究に必要な基礎的知識・能力等を育てる。	02JC121と同一。
OBTA322	道徳教育学研究法II	2	3.0	1 - 3	通年	応談		田中 マリア	道徳教育学に関する学術論文を収集整理し、道徳教育学研究において、これまでいかなる研究課題が検討されてきたかを把握する。また、それらを読解する中で、道徳教育学研究を掘り下げていく際の視点や論点などについての勘所をつかむ。さらに、それら読解してきた学術論文をはじめ、道徳教育の先行研究群に対して、受講者のとくに関心のある課題について各々さらに掘り下げ、討議する。これらを通して、道徳教育学分野における論文作成にかかわる研究能力の育成を図る。	02JC122と同一。
OBTA323	道徳教育学研究法III	2	3.0	1 - 3	通年	応談		田中 マリア	道徳教育学研究分野における論文執筆技能の向上を目的としつつ、受講者が研究能力を培うための実践的、総合的研究指導を行う。具体的には各受講生がそれぞれ、自己の研究関心や研究課題を道徳教育学研究の系譜に位置づけ直し、最新の先行研究の動向をおさえた上で、その研究主題、課題設定、研究方法等について掘り下げていく。受講者は順番に自身の研究構想、論文執筆計画について発表し合い、相互に検証や討議を重ねながら、その精度を高めていく。	02JC123と同一。
OBTA331	キャリア教育学研究法I	2	3.0	1 - 3	通年	集中		藤田 晃之、京免 徹雄	キャリア教育の目的について、受講者による研究報告に基づき議論することを通して、研究能力の向上を図る。具体的には、戦後日本の学校教育における職業指導・進路指導・職業教育、及び、アメリカを中心に理論化がなされてきたvocational guidance, career guidance, career education, career and technical education等との比較検討を、主要な先行研究を対象として分析しつつ議論することを中核とする。その際、それぞれの研究における課題の設定・研究対象の選定・分析の方法などについても検討を加えることを通して、受講者の研究能力の向上を図る。	02JC141と同一。
OBTA332	キャリア教育学研究法II	2	3.0	1 - 3	通年	応談		藤田 晃之、京免 徹雄	キャリア教育の内容について、受講者による研究報告に基づき議論することを通して、研究能力の向上を図る。具体的には、小学校・中学校・高等学校における児童生徒の発達の段階に即して育成すべき資質・能力とそれらにふさわしい指導内容の検討(国内外の先行研究の分析)を中核に据えつつ、資質・能力をめぐるベンチマーク(到達目標)の設定や学習状況のモニタリング、学習成果の評価の在り方も視野に収めて議論する。その際、それぞれの研究における課題の設定・研究対象の選定・分析の方法などについても検討を加えることを通して、受講者の研究能力の向上を図る。	02JC142と同一。
OBTA333	キャリア教育学研究法III	2	3.0	1 - 3	通年	随時		藤田 晃之、京免 徹雄	キャリア教育の方法について、受講者による研究報告に基づき議論することを通して、研究能力の向上を図る。具体的には、主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと、個々の児童の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリングの双方を扱う。前者に関しては特に教科・科目を通じた実践の在り方、後者については予防・開発的な支援・指導の在り方に焦点をあてながら、国内外の関連研究の分析を行い、議論をする。その際、それぞれの研究における課題の設定・研究対象の選定・分析の方法などについても検討を加えることを通して、受講者の研究能力の向上を図る。	02JC143と同一。
OBTA341	社会科教育学研究法I	2	3.0	1 - 3	通年	応談		井田 仁康、國分 麻里、唐木 清志	社会科教育の論文作成の基礎について考察する。論文の目的の設定、論文の枠組みについて講義や討論を通して考察し、論文の基礎についての理解と考察を深める。	02JC201と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBTA342	社会科教育学研究法II	2	3.0	1-3	通年	応談		井田 仁康, 國分麻里, 唐木 清志	社会科教育の先行研究となる論文が、どのように目的を設定し、論文の枠組みを立てているか分析し、その結果を共有し批判的考察をすることで論文を構成する能力を育む。	02JC202と同一。
OBTA343	社会科教育学研究法III	2	3.0	1-3	通年	随時		井田 仁康, 國分麻里, 唐木 清志	社会科教育学の目的、方法、内容を踏まえて、どのようにオリジナリティを持たせた論文を作成できるのか、自分の研究成果を論文として書きながら考察し、論文作成の実践力を身につける。	02JC203と同一。
OBTA351	人文科教育学研究法I	2	3.0	1-3	通年	応談		名畑目 真吾, 甲斐雄一郎, 長田 友紀	現時点における言語教育(国語教育・母語教育・日本語教育・英語教育)研究の範囲とそれぞれの水準を把握することをめざして、主たるレビューに依拠しつつ関連分野における先行研究の講読、討議を行う。次いで受講者が各自の関心に即した領域についてテーマを設定し、自らの先行研究の収集・整理によって行ったレビューを行い、他の参加者との討論を通してレビューの内容を洗練させるとともに自らの研究課題を鮮明にすることを旨とする。	02JC211と同一。
OBTA352	人文科教育学研究法II	2	3.0	1-3	通年	応談		名畑目 真吾, 甲斐雄一郎, 長田 友紀	言語教育(国語教育・母語教育・日本語教育・英語教育)の実態に即してその問題を明らかにするとともに、それぞれの問題の構造を理解することを目指す。そのために国際比較、また主要なトピックにかかわって歴史的な視点に基づく基本的な文献や原資料を用いつつ、教育課程における言語教育の位置づけ、教材選択の視点、指導方法の選択、児童生徒の学習の実際、そして評価の在り方など、時宜に応じたテーマに関して意見交換・討論を行う。	02JC212と同一。
OBTA353	人文科教育学研究法III	2	3.0	1-3	通年	随時		名畑目 真吾, 甲斐雄一郎, 長田 友紀	言語教育(国語教育・母語教育・日本語教育・英語教育)に関する調査研究に関して、代表的な研究や最新の研究を読んだり各自の調査研究を報告し合ったりすることで、実験的調査や観察調査・フィールドワークなどの手法を洗練させることをねらう。第1回から第5回は基礎的・代表的な文献を批判的に検討する。その際、国語教育だけでなく日本語教育や英語教育などの研究もみることでも他領域の研究目的や手法との共通性や差異についても考え研究手法の幅を広げていく。第6回から第10回は、各自の調査研究について報告を行いながら討議する。その際、当該調査手法の適否だけでなく、他の視点からの分析や別手法・分析が行えないかなどについても検討することで、さらなる調査や分析に発展させる。	02JC213と同一。
OBTA361	数学教育学研究法I	2	3.0	1-3	通年	応談		磯田 正美, 清水美憲, 蒔苗 直道	数学教育学の内外の文献の検討を通して研究方法論の基礎を学ぶとともに、具体的な実証的研究の事例を批判的に検討する。特に、数学学習、数学的問題解決、数学における理解等に関する実証的研究の進展を、各時代における他の研究分野からの影響と研究パラダイムの進展に注意しながら検討するとともに、その根底にある研究方法論の展開を時系列に沿って検討する。この過程を通して、各自の問題意識に基づく研究課題(リサーチクエスチョン)の設定のあり方と研究方法論を学ぶ。	02JC221と同一。
OBTA362	数学教育学研究法II	2	3.0	1-3	通年	随時		磯田 正美, 清水美憲, 蒔苗 直道	数学教育におけるカリキュラム改革について、海外の事例に関する文献講読を通して検討し、数学カリキュラムを比較文化的観点を加味して検討する。また、数学カリキュラムの構成原理、学問領域としての数学と学校数学との関係のあり方を規範的に考察する。この過程を通して、各自の問題意識に基づく研究課題の意義とその具体化のあり方、その研究目的に基づく適切な研究方法の考察を行う。	02JC222と同一。
OBTA363	数学教育学研究法III	2	3.0	1-3	通年	応談		磯田 正美, 清水美憲, 蒔苗 直道	数学教育学における理論的研究・歴史研究を中心に内外の文献を検討し、研究方法論について学ぶとともに、具体的な研究事例を取り上げ批判的に検討する。特に、数学教育研究が数学教育の教育課程や実践の改善に対して果たす役割を考察し、各自の研究目的からみた数学教育改善への示唆を導出する。この過程で、各自の研究課題に引きつけて、数学教育学の特質とその意義を考察する。	02JC223と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBTA371	理科教育学研究法I	2	3.0	1 - 3	通年	応談		遠藤 優介, 山本容子	理科教育学の基本的テーマを取り上げ、理科教育学研究を進める上での基礎を形成することをねらいとする。内外の重要論文・著書を読み、その研究方法と着想について論究する。ここでは、理科教育・科学教育の基礎研究について、特に、理科教育研究の問のあり方、探究的な科目としての「理科」のあり方、女子の理科教育、科学教育改革の動向等を取り上げ、そこの研究方法論の妥当性を探る。	02JC231と同一。
OBTA372	理科教育学研究法II	2	3.0	1 - 3	通年	随時		遠藤 優介, 山本容子	受講者の関心あるテーマを取り上げ、理科教育学研究を進める上での実践的力を形成することをねらいとする。内外の重要論文・著書の講読と受講者各自の発表を中心とする。ここでは、理科教育の内容・カリキュラム研究の方法論について検討する。具体的には、教科書分析、教材分析、教育内容としてのNOS(Nature of Science)論、アナロジー論等の研究方法を扱う。	02JC232と同一。
OBTA373	理科教育学研究法III	2	3.0	1 - 3	通年	応談		遠藤 優介, 山本容子	受講者の関心あるテーマを取り上げ、理科教育学研究を進める上での高度な実践的力を形成することをねらいとする。内外の重要論文・著書の講読と受講者各自の発表を中心とする。ここでは、理科教授学習研究の方法論について検討する。具体的な事例としては、科学概念変容研究、協同学習と社会的構成論、アーギュメンテーション論等の研究方法を扱う。	02JC233と同一。